

おおはる コミュニティ・スクール 通信

No. 11(令和7年1月27日)

大治町立小中学校運営協議会

事務局 大治町立大治小学校

「自他を大切に、たくましく生きる大治の子」「地域とともにある学校」を目指して

大治町は、大治小学校、大治南小学校、大治西小学校、大治中学校の4校で1つの学校運営協議会を設置し、小中連携や小学校間連携の促進を図ります。学校運営協議会は、保護者や地域の方が協力して協議を進めることで、学校だけでは気づかないことなどを保護者や地域の方からの視点で取り入れることができます。地域と学校が一体となってよりよい学校づくりに努めます。

令和7年度 第2回大治町立小中学校運営協議会を開催しました。

第2回大治町立小中学校運営協議会を11月5日(水)午後2時から大治町立公民館で開催しました。運営協議会委員に加え、大治町教育委員会教育長並びに教育委員の皆様、教育委員会事務局より学校教育課長に出席をしていただきました。

会議の主な内容は次の通りです。

会議次第

- 1 開会
- 2 新教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 協議事項
 - ・令和7年度の学校評価の内容及び方法について
- 5 意見交流
- 6 町教育委員会より
- 7 諸連絡
- 8 閉会



運営協議会であいさつする梶浦教育長

協議事項

令和7年度の学校評価の内容及び方法について協議を行った。昨年度と同様に、これまでの各学校の取り組みを生かしつつ、各学校の共通する評価項目を取り上げて、その結果の集約・公表を行う。

アンケートの実施時期は、例年通り12月～1月とし、各校の保護者(中学校は生徒も)を対象として実施する。

アンケートの結果については、3月下旬に各学校のホームページで公開する予定である。

意見交流から

○外国をルーツを持つ児童生徒の対応について

学校からは、外国をルーツに持つなど多様な背景を持つ児童生徒の中には、日本語と日本の生活文化に慣れるまで時間がかかる児童がいることと、学校が保護者との意思疎通に苦労していることが伝えられた。

○下校後の児童生徒の受け入れ先と過ごし方について

小学校では、登下校中のトラブルが多く、毎日のように子どもたちを集めて指導していることが伝えられた。その中で、ONBの会の活動に感謝していることが伝えられた。また、小中学校ともに、下校後のトラブルを学校に解決を求められることが多くあると報告がなされた。委員からは、校門を出たら保護者の責任ではないかという意見が出された。

町教育委員会から

- ・学校評価について、学校は分析を行い、課題を改善し、成果を伸ばしてほしい。
- ・学校は頑張っていると認めていただいている。学校側も甘えることなくひと頑張りをお願いしたい。
- ・町財政は厳しい。行政改革で事業を見直している。財政的に厳しくても、町長は未来のために学校教育を第一にと考えている。
- ・多様な背景を持つ児童生徒が増えている現状がある。地域の方も見守りをお願いしたい。学校は、居所不明者が出ないようにアンテナを高くしてほしい。
- ・下校後の生活については、子どもたちの健全育成が大切である。家庭の理解をすすめたい。
- ・球戯場には監視カメラを設置予定であると、聞いている。

◎ 次回は、令和7年3月11日(水)午後2時より大治町立公民館にて開催します。

地域とともにある学校を目指して

活動紹介



大治町では、地域とともにある学校を目指して「大治町地域連携子ども応援活動ネットワーク連絡会（子ども応援ネット）」を開催しています。

今年度の子ども応援ネットは、

7月17日（木）に開催されました。

た。今年は、**大治小学校**3～6年生が総合的な学習の時間に取り組んでいる「輝け！大治スピリット」について発表されました。

町内小中学校は、子ども応援ネットに参加している団体と協力して様々な教育活動を行うだけでなく、子ども応援ネット参加団体の活動に

ボランティアを出して協力しています。今年度より、美和高校も子ども応援ネットに参加し、大治町内のさまざまな活動に「地域活動部」の生徒が活躍しています。

